



平成27年度 企業局交通部運営方針



平成27年4月
青森市企業局交通部

はじめに

青森市営バスは、東京都に次いで全国で2番目に長い歴史を持つ公営交通であり、大正15年の創業以来、市民に最も身近な公共交通機関として、安全で安心して利用できる“市民の皆様の足”としての役割を果たしてきました。

また、通勤・通学・買物・通院など市民生活に欠かせない公共交通機関であり、高齢化の進展により、その社会的重要性が増していくものと見込まれています。

しかし、その一方で、マイカーの普及や人口減少などを要因とした利用者の減少が続いており、経営環境がより一層厳しさを増していくことが懸念される中、将来にわたってその役割を果たしていくためには、持続可能な経営基盤を確立していく必要があります。

そのため、交通部では、職員一人一人がお客様の視点に立ち、安全・安心・快適な輸送サービスの提供に努めるとともに、経営環境の変化に的確に対応するための経費の見直しや、新たな増客増収対策などの経営改善に積極的に取り組んでいきます。

青森市公営企業管理者

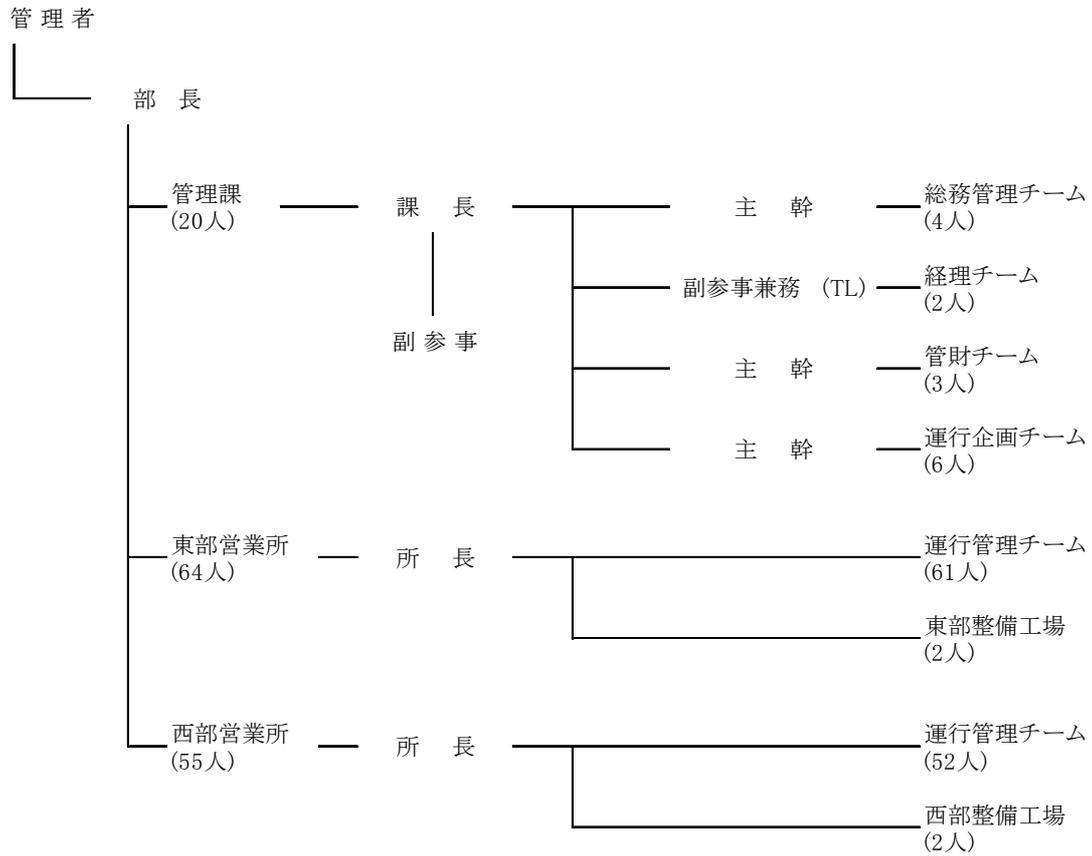
相馬 政美

目次

I 運営体制	3 p
1 業務組織図（平成27年4月1日現在）		
2 職員人員表（平成27年4月1日現在）		
II 基本方針	4 p
1 安全・安心・快適な輸送サービスの提供		
2 経営健全化の推進		
3 市行政施策等との連携		
III 自動車運送事業の概要		
1 業務の予定量	4 p
2 平成27年度当初予算のポイント	5 p
IV 平成27年度主要施策		
1 安全・安心・快適な輸送サービスの提供	8 p
2 経営健全化の推進	12 p
3 市行政施策等との連携	18 p
(参考資料)	21 p
資料1	平成27年度青森市自動車運送事業会計当初予算総括表	
資料2	一般会計からの補助金等の推移（5年間）	
資料3	営業成績の推移（5年間）	

I 運営体制

1 業務組織図 (平成27年4月1日現在)



※再任用・嘱託員・臨時職員は除く。

2 職員人員表 (平成27年4月1日現在)

	正職員	再任用職員	嘱託員	臨時職員	合計
管理者	1	0	0	0	1
部長	1	0	0	0	1
管理課	20	0	11	4	35
東部営業所	64 (52)	18 (16)	22 (22)	1	105 (90)
西部営業所	55 (42)	10 (9)	24 (24)	1	90 (75)
合計	141 (94)	28 (25)	57 (46)	6	232 (165)

※ () 内は運転士の数

Ⅱ 基本方針

1 安全・安心・快適な輸送サービスの提供

「輸送の安全確保が、最大の使命」をスローガンとし、安全運転を更に徹底するとともに、接客研修の充実などにより、安全・安心・快適な輸送サービスを提供します。

2 経営健全化の推進

増客増収対策の取組やコスト削減により、経営力の強化に努めます。

3 市行政施策等との連携

市が策定する「地域公共交通網形成計画」との調整を図りながら、持続可能な運行体系の構築を目指します。

また、公営バスとして、「青森市総合計画」に掲げる各施策と連携した取組を進めます。

Ⅲ 自動車運送事業の概要

1 業務の予定量

	平成 27 年度当初予算	参考：平成 26 年度当初予算
営業路線数	35 路線	36 路線
運行系統数	163 系統	170 系統
ダイヤ数	141 ダイヤ	148 ダイヤ
バス停留所数	741 基	780 基
在籍車両数	139 両	146 両
年間走行キロ（見込み）	3,912,016 km	4,133,348 km
年間輸送人員（見込み） （1日平均輸送人員）	7,528,655 人 （1日平均 20,570 人）	7,876,308 人 （1日平均 21,579 人）
乗車料収入（税込）	1,720,848,000 円	1,814,172,000 円

※乗車料収入には、生活路線維持負担金は含まない。

平成 27 年度当初においては、平成 26 年 10 月からの公共交通社会実験に伴う 1 路線（浪岡線＜大釈迦経由＞）の路線廃止を踏まえ、35 路線 163 系統での運行をしています。

なお、平成 27 年度においても、鉄道のダイヤ改正や交通需要等の変化に対応し、10 月 1 日にダイヤ改正を実施することとしています。

2 平成 27 年度当初予算（補正予算第 1 号後）のポイント

【予算（税込み）】 単位：百万円

事業収益	2,685
営業収益	2,158
(生活路線維持負担金)	(412)
営業外収益	434
特別利益	93
事業費用	2,549
営業費用	2,502
営業外費用	47
特別損失	0
経常損益	43
純損益	136
累積欠損金	2,607

資本的収入	595
資本的支出	601
資本的収支差	△6

資金不足額	179
(資金不足比率：%)	8.2

*百万円未満を四捨五入していますので、合計が一致しない場合があります。

*当初予算額は、平成 27 年度補正予算（第 1 号）を含む金額を記載しています。

経常損益 = 経常収益(営業収益+営業外収益) - 経常費用(営業費用+営業外費用)

【主な内訳(前年度比較)】

○収益

- ・運送収益 21.3 億円(△0.6 億円)
- ・他会計補助金 2.8 億円(1.1 億円)
- ・長期前受金戻入 2.4 億円(0.3 億円)

○費用

- ・職員給与費 15.0 億円(△1.1 億円)
- ・経費 7.6 億円(0.3 億円)
- ・減価償却費 2.4 億円(0.3 億円)

【主な事業予算】

○ノンステップバスの購入

- ・・・15 両、3.4 億円

(ワンステップからノンステップへ切替え)

○委託ダイヤ（運行管理の受委託）の拡大

- ・・・7.5 → 15 ダイヤ、0.9 億円

【予算の規模】

平成 27 年度の当初予算における収益的支出の事業費用は、25 億 4 千 9 百万円（対前年度 11 億 8 千 百万円減）、資本的支出は、6 億 百万円（対前年度 3 千 3 百万円増）の合計 31 億 5 千 百万円（対前年度 11 億 4 千 8 百万円減）となっています。

(※P22 「【資料 1】平成 27 年度 青森市自動車運送事業会計 当初予算総括表(税込み)」参照)

[損益収支の状況]

事業収益は、26億8千5百万円で、前年度に比べ6千9百万円増加しています。

営業収益は、市民バスの運行や筒井駅開業などの影響による減収分を見込んだため、21億5千8百万円となり、前年度に比べ6千4百万円減少しています。

営業外収益は、退職者の増に伴う他会計補助金の増額などにより、4億3千4百万円となり、前年度に比べ4千万円増加しています。

また、特別利益は、会計基準の改正で義務付けられた過年度分に係る長期前受金戻入を計上したことから、前年度に比べ9千3百万円増加しています。

一方、事業費用は、25億4千9百万円で、会計基準の改正に伴う引当金などを一括計上した前年度に比べ、11億8千百万円減少しています。

このうち、営業費用は、人員不足を補うための運行管理の受委託（弘南バス：15ダイヤ）や車両購入に伴う減価償却費が増加しましたが、退職者不補充による職員給与費の減少などにより、25億2百万円で、前年度に比べ4千6百万円減少しています。

その結果、経常損益は4千3百万円の黒字となり、さらに特別利益として長期前受金戻入を計上したことにより、純損益は1億3千6百万円の黒字となりました。

[累積欠損金と資金不足比率]

平成27年度の累積欠損金は、26億7百万円となり、前年度に比べ1億3千6百万円減少しています。

資金不足額は、1億7千9百万円となり、前年度に比べ9千6百万円減少しました。その結果、公営企業の健全度を示す資金不足比率は、前年度に比べ4.1ポイント改善し、8.2%になりました。

[資本的収支の状況]

収入は、5億9千5百万円で、前年度に比べ9千9百万円増加しており、支出は、6億百万円で、前年度に比べ3千3百万円増加しています。

収支とも増加しましたが、その主な要因は、支出の増加に連動した財源の増加によるものです。

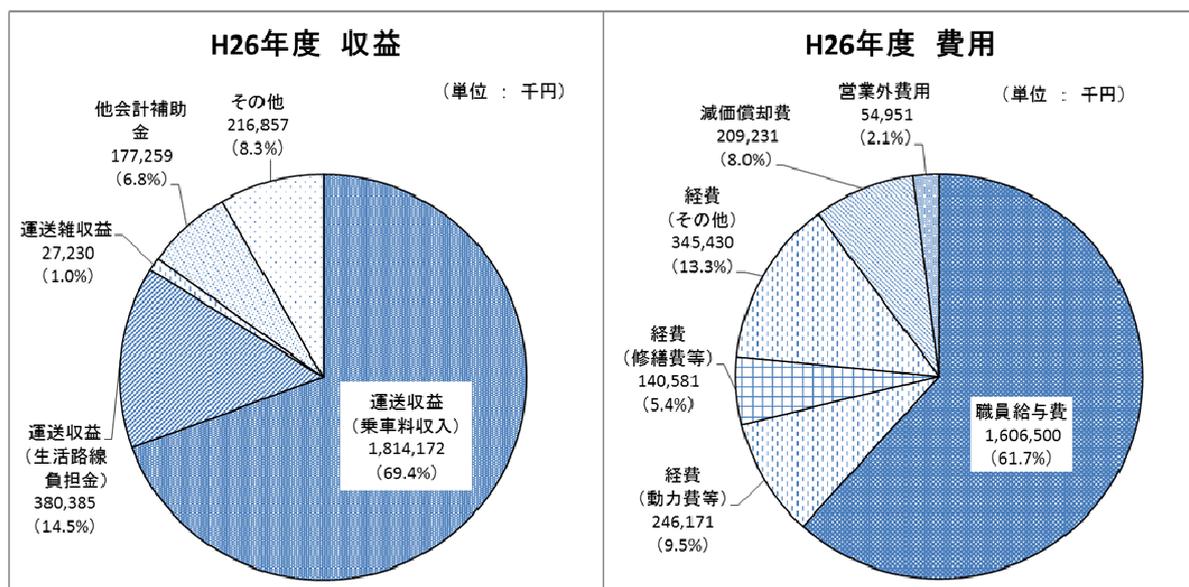
支出増の理由は、国が推進するバリアフリー化に対応するための購入車両の切替え（ワンステップバス→ノンステップバス）に伴う建設改良費の増加及び、平成25年度以降のバス購入に係る企業債償還金の増加によるものです。

なお、他会計長期借入金返還金が6千4百万円減少しましたが、これは水道事業会計からの借入分の返済が終了したことによるものです。

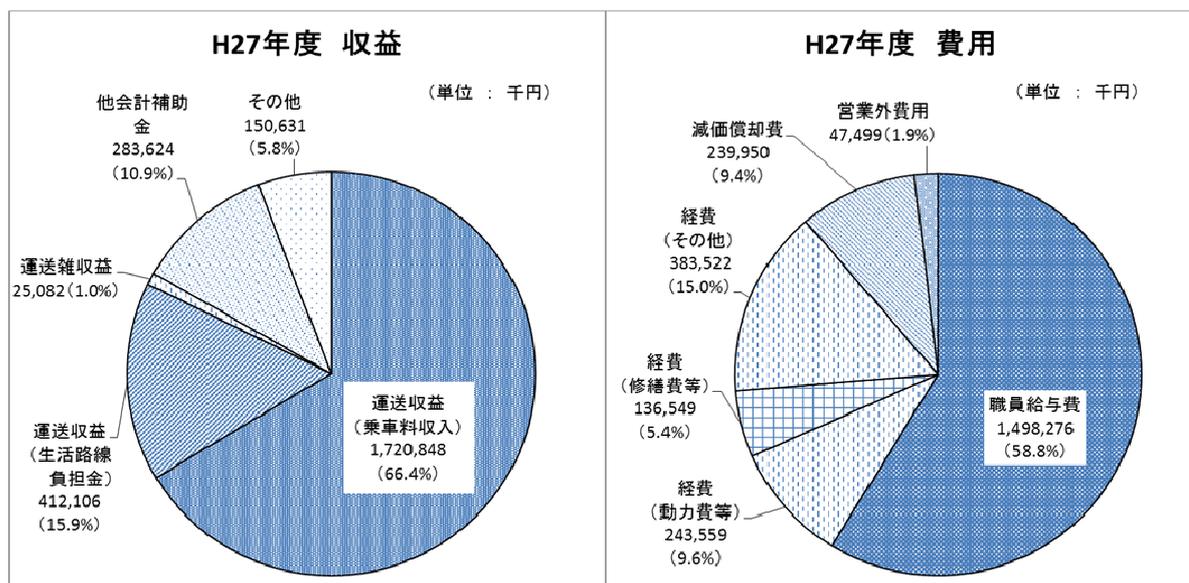
※「長期前受金」とは・・・

償却資産の取得または改良に伴い交付される補助金等を「長期前受金」として負債に計上したうえで、減価償却費見合い分を毎年度の収益に計上するものです。（平成26年度の会計基準改正で義務化）

【経常収支の内訳及び割合（平成26年度当初予算）】



【経常収支の内訳及び割合（平成27年度当初予算）】



平成27年度当初予算額は、平成27年度補正予算（第1号）後の額としている。

IV 平成 27 年度主要施策

1 安全・安心・快適な輸送サービスの提供

1-1 安全性の強化

(1) 運輸安全マネジメントの推進

平成 18 年 10 月、輸送の安全確保に向け、基本方針、重点施策、計画等を定めた「安全管理規程」を制定し、その運用を通じて安全運行に努めています。

平成 27 年度も、この安全マネジメントの実効性を確保するため、ヒヤリ・ハット情報の収集・活用、乗務員に対する研修等を実施しながら、重大事故の防止や車内事故等の削減に努めます。

また、安全対策の強化や安全運転の推進、トラブル発生時の迅速な解決など、安全管理上有効なドライブレコーダーの活用方法について検討を進めます。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
運輸安全マネジメントの推進	安全運転講習会等の継続実施		
			ドライブレコーダーの活用検討

[これまでの推移]

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
重大事故	0 件	0 件	0 件
有責事故	31 件	16 件	19 件
うち車内事故	6 件	2 件	5 件

参考①：重大事故とは、自動車事故報告規則第 2 条に規定されている「転覆」「転落」等の事故に該当するものです。

参考②：車内事故とは、車内で発生した転倒やドア操作ミスによる負傷事故等です。

(2) 市営バスモニター制度の継続実施

日常バスを利用しているお客様から、運転操作、接客状況等をチェックしていただく「市営バスモニター制度」を引き続き実施し、運転技術の向上と接客サービスの向上に努めます。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
市営バスモニターの実施	・年 2 回 各 15 名 (8～9 月、 1～2 月)	⇒ ・年 1 回 27 名 (11～1 月)	⇒ ・年 1 回(予定) 25 名 (11～1 月)

1-2 利便性の向上

(1) 需要に応じた路線・ダイヤの設定・見直し

平成 27 年 10 月のダイヤ改正にあたっては、市民要望に応え、路線や始発・終発時間の見直し、鉄道との乗継ぎの利便性も考慮しながら、効率的なダイヤ編成に努めます。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
ダイヤの設定見直し	10 月実施 ※社会実験 高田線、青柳線ほか 5 地区 6 路線	10 月実施 ※社会実験 浪岡線(大釈迦経由) 1 地区 1 路線	10 月実施 ※社会実験 なし

(2) 臨時的な需要への対応

ねぶた祭、お盆などの行事に伴う臨時便を運行するほか、イベント主催者等からの要請に可能な限り応えていきます。

(3) 高齢者に配慮した時刻表の改善

バス停留所に掲示している通過時刻表について、バス停留所毎の便数等にあわせ文字を大きくするなど、見やすい表示に努めます。

(4) ホームページの充実

「見やすく、わかりやすく、親しみやすい」ホームページを目指し内容の充実を図ります。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
ホームページの充実	交通部ホームページ リニューアル (H25～)		市ホームページ サブサイト化 (継続)

(5) 降雪期のバス停留所の除雪対応

降雪期における寄せ雪などによるバス停留所の安全を確保するため、バス停留所除雪について関係機関へ要請するとともに、交通部職員による除雪を引き続き実施します。

1-3 サービス・マナーの向上

(1) 接客研修の充実

職員の接客能力の向上のため、平成 25 年度から実施している外部講師による研修を引き続き実施します。

平成 27 年度は、車内アナウンス向上を図るための研修の充実を図ります。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
接客研修の充実	外部講師による研修 (H25~継続実施)		
			車内アナウンス研修の充実

(2) お客様にやさしい、きれいなバスの整備

子どもから高齢者まで様々な方がスムーズに乗り降りできるよう、お客様にやさしいノンステップバスを 15 両導入します。

また、腐食が進行しているバス車両の板金修繕を継続して実施します。

[バス購入及び板金修繕の実施状況]

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
お客様にやさしく きれいなバスの整備	新車バスの購入 (継続実施)		
	ワンステップ (5 両)	ワンステップ (15 両)	ノンステップ (15 両予定)
	板金修繕 (継続実施)		
	(23 両)	(20 両)	(20 両予定)

[ノンステップ・ワンステップバスの導入実績]

区 分	平成 25 年度 決算	平成 26 年度 決算見込み	平成 27 年度 決算見込み
バス車両数 (台)	1 4 6	1 3 2	1 3 9
ノンステップバス	2	2	1 7
ワンステップバス	4 3	5 1	5 1
導入割合 (%)	3 0 . 8	4 0 . 2	4 8 . 9

2 経営健全化の推進

2-1 増客増収対策

(1) 通勤定期券の販売促進（「エコ100定期」の導入）

平成27年4月から、通勤定期券所持者と同伴者が土・日・祝日等に市営バス料金を100円でご利用できる通勤定期券所持者特別割引制度「エコ100定期」を実施し、土・日・祝日の利用と通勤定期券の販売を促進します。

(2) 高齢者フリーパス券の利用促進

高齢者の負担を軽減し、バス利用の増進を図るため、平成26年4月にフリーパス券の一部を値下げしましたが、各発売所やバス車内にポスターを掲示し、利用を促進します。

(3) 通学定期券等の販売推進

鉄道沿線に立地していない高校の入学説明会において、通学定期券や通学バスカードのPRを兼ねて臨時発売所を開設します。

(4) 中学校等におけるフリールートカードの活用促進

中学校などの校外学習用として、お得なフリールートカード（700円/日）の活用を促進するため、市中学校長会研修会でのPRに取り組みます。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
【増客増収対策】 乗車券の販売促進 （制度改正・PR）		フリーパス券料金の見直し （H26～継続）	
			エコ100定期 導入
		高校入学説明会臨時発売所設置 （H25～継続）	
			校外学習用フリールートカードPR （H26～継続）

(5) 広告料収入の確保

引き続きバス広告のスポンサーの獲得に努めるとともに、平成 27 年度から、「企業向け広告付きバスカード」やバス中ドアの「戸袋シートを活用した広告」など広告料収入の確保に取り組めます。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
広告料収入の確保に向けた取組	広告取扱い業者へのPR等（継続実施）		
			企業向け広告 バスカード実施
			戸袋シート広告 実施

(6) 市営バスのイメージアップ

市営バスへの理解と親しみを深めていただくため、バス車内への市内小学校の版画の展示や、福祉団体等と連携した車いす乗車体験会を開催します。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
市営バスのイメージアップに向けた取組		版画ミニギャラリーバス運行 (H26～継続実施)	
		車いす乗車体験会 (H26～継続実施)	

2-2 経営の効率化

(1) 人件費の削減

引き続き正職員運転士の退職者不補充を継続するとともに、嘱託運転士についても新規雇用を抑制します。

[職員数の推移（当初）] ※管理者除く

区 分	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度 計画
運転士	1 9 9	2 0 2	2 0 0	1 8 8	1 7 3	1 6 9
正職員	1 4 4	1 3 2	1 1 8	1 0 8	1 0 0	9 4
再任用職員	2 0	2 1	2 3	2 9	2 4	2 6
嘱託員	3 5	4 9	5 9	5 1	4 9	4 9
整備士	2	2	2	2	4	4
事務職員	5 2	5 4	5 4	6 3	6 4	6 4
正職員	4 3	4 5	4 5	4 4	4 2	4 2
再任用職員	1	2	2	2	3	3
嘱託員	0	0	0	1 0	1 2	1 3
臨時職員	8	7	7	7	7	6
職員総計	2 5 3	2 5 8	2 5 6	2 5 3	2 4 1	2 3 7

〔参考指標：人件費比率（％）（職員給与費 / 営業収益*100）〕

営業収益（売上）と職員給与費（人件費、退職給与含む）の対比で、割合が低いほど生産性が高いことを示します。

平成 26 年度は、会計基準の改正に伴う退職給付引当金の計上などの影響により上昇しましたが、平成 27 年度は退職者不補充の継続などにより、改善しています。

（各年度とも税込み額で算出）

指 標 名	平成 25 年度 決算	平成 26 年度 当初予算	平成 27 年度 当初予算
人件費比率（％）	70.6	72.3	69.4

(2) 経費の削減

平成 27 年度予算では、市の交通戦略の見直しにより、バス路線再編に伴う経費の圧縮が見込めない中であっても、引き続き退職者不補充を継続するとともに、ダイヤを維持するために必要な人員については、アウトソーシングの拡大を図るなど、経費の削減に努めた結果、経常費用を前年度当初予算比で 97.9%に抑制しました。

引き続き計画的かつ効率的な予算執行を行い、一層の経費削減に努めます。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
運転管理に関する民間 委託の実施 (運行管理の受委託)	委託ダイヤ数 4月～9月：14 10月～3月：10	委託ダイヤ数 4月～9月：10 10月～3月：5	委託ダイヤ数 4月～9月：15 10月～3月：15

〔参考指標：経常収支比率 (%) (経常収益 / 経常費用*100) 〕

経常的活動の能率性を示すもので、100%を超えると黒字になります。

経費節減に継続して取り組んだ結果、前年度当初予算より上昇しています。

(各年度とも税込み額で算出)

指 標 名	平成 25 年度 決算	※平成 26 年度 当初予算		平成 27 年度 当初予算
		新会計基準	旧会計基準	
経常収支比率 (%)	92.5	100.5	97.5	101.7

※平成 27 年度当初予算

実質的な当初予算である平成 27 年度補正予算 (第 1 号) 後の額としています。

※平成 26 年度当初予算

会計基準の改正に伴う予算計上 (収益 207 百万円、費用 133 百万円) により、100%を超えるため、平成 25 年度と比較しやすいようその影響分を除いた比率 (旧会計基準) も記載しています。

(3) 車両の効率的な運用

計画的な車両の修繕や車両の納入時期に合わせた廃車、各営業所における適正な配車など、車両の効率的な運用に努め、実働率の向上を図ります。

[バス車両数の推移と実働率の推移]

区 分		平成 25 年度 決算	平成 26 年度 決算見込み
稼働車両数 (延べ台数) A		40,595	38,983
実在車両数 (延べ台数) B		56,350	51,956
実働率 (%) A/B		72.0	75.0
参 考	路線数	36	35
	ダイヤ数	148	141
	車両数	146	132

(4) 更なる経営改善に向けた取組

市では、まちづくりと一体となった持続可能な地域公共交通網を形成するため「地域公共交通網形成計画」を策定することとしています。

交通部ではこの計画に合わせ、社会経済情勢の変化等を踏まえた、交通部の経営戦略の策定を進めます。

2-3 事務改善

(1) 出納事務の効率化

平成 26 年度から、交通事業における支払業務を従前の紙（振込依頼書）から、インターネットを活用した銀行取引（インターネットバンキング）に変更し、出納事務の効率化と迅速化を図りました。

平成 27 年度は、給与振替データもインターネットバンキングを活用することで、さらに効率化と迅速化を図ります。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
インターネット バンキングの活用		口座振替払 (給与データを除く)	
			給与振替 (拡充)

2-4 組織の活性化

(1) 業務への意欲と良好なコミュニケーションの確保

市営バスモニター制度などでお客様から良い評価を受けた職員を表彰するなど、職員一人一人の業務意欲を高めていくとともに、乗務員と管理部門職員とのコミュニケーションの場をつくり、日頃から情報交換がしやすい職場環境づくりに取り組みます。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
優秀な職員の表彰	無事故・無違反表彰		
	スマイルドライバー表彰		

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
乗務員との意見交換の場の設定	経営層との対話集会などの継続実施		

3 市行政施策等との連携

(1) 市総合都市交通戦略との連携

市では、現在、「青森市総合都市交通戦略」の重点戦略である「バス交通に関する戦略」に基づき、バス交通ネットワークの再編に取り組んでいます。

平成24年10月からは、孫内、岡町、矢田・滝沢地区、平成25年10月からは、浪岡（空港経由）、高田、荒川、入内・大柳辺、青柳地区、平成26年10月からは、浪岡地区（大釈迦経由）において公共交通社会実験がスタートし、順次、市民バスによる本格運行に移行していますが、そのほとんどが市街地までの直通便となり、戦略との乖離が生じています。

このため、市では、一旦立ち止まったうえで、実効性のある路線再編の手法を含め、まちづくりと一体となった公共交通網の再構築に向けた「地域公共交通網形成計画」を策定することとしています。

交通部においても、市の計画と連携しながら、バス交通ネットワークの再編と経営改善に取り組んでいきます。

[これまでの路線再編進捗状況と今後の見込]

再編対象路線	業 務 内 容				
	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成27年度 ～
孫内線、岡町線、矢田線、 滝沢線、矢田・滝沢線	再編 調査	社会 実験	本格 運行		
浪岡線（空港経由）、高田 線、青い森病院線、入内線、 大柳辺線、青柳線		再編 調査	社会 実験	本格 運行	
浪岡線（大釈迦経由）			再編 調査	社会 実験	本格 運行

(2) 市環境施策との連携

市では、(株)西田組、(株)マエダとの間で三者協定を締結し、家庭から排出される廃食用油をバイオディーゼル燃料(BDF)としてリサイクルする取組を推進しています。

交通部としても、企業としての環境への貢献、さらには市が推進するリサイクル活動への貢献といった観点から、平成26年度からBDFによる市営バス1両の運行を実施していますが、平成27年度には使用車両を2両に拡充します。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
BDF(バイオディーゼル燃料)の市営バスへの活用		1両 4,7650	2両(拡充) 約12,0000

(参考) 使用期間・・・4月から10月まで

(3) 交通安全推進に向けた関係機関との連携

例年、交通部では、全国交通安全運動や交通安全県民運動、バス無事故運動などと連携した重点目標に基づき、のぼり、ポスターの営業所及びバス車内等への掲示、交通指導隊員による歩行者や車両を対象とした安全誘導など、交通安全の推進に取り組んでいます。

平成27年度は、青森県警が高齢者等の交通事故の削減を目的に実施している運転免許自主返納事業に賛同し、運転免許自主返納者に対し5,000円相当のバスカードを提供することで、マイカーから市営バスへの転換の促進と高齢者等による交通事故の防止に取り組めます。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
交通事故防止のための取組	【継続実施】交通安全運動との連携 ○交通安全スローガンの設定 ○交通安全運動のぼりの設置 ○交通安全運動ポスターの掲示 ○交通指導隊員による安全誘導		
			運転免許自主返納支援制度の実施

(4) 中学校等におけるフリールートカードの活用促進（「2-1 増客増収対策」再掲）

中学校などの校外学習用として、お得なフリールートカード（700円／日）の活用を促進するため、市中学校長会研修会でのPRに取り組みます。

(5) 市営バスのイメージアップ（「2-1 増客増収対策」再掲）

市営バスへの理解と親しみを深めていただくため、バス車内への市内小学校の版画の展示や、福祉団体等と連携した車いす乗車体験会を開催します。

參考資料

【資料1】

平成27年度 青森市自動車運送事業会計 当初予算総括表(税込み)

(単位:千円、%)

	収 益					費 用						
	科 目	H26当初予算	H27当初予算	増減額	増減率	科 目	H26当初予算	H27当初予算	増減額	増減率		
収 益 的 収 支	営業 収益	乗 合	2,194,557	2,132,954	△ 61,603	△ 2.8	職員 給与 費	基 本 給	610,094	585,301	△ 24,793	△ 4.1
		運 送 収 益						退 職 手 当	151,119	62,016	△ 89,103	△ 59.0
		計	2,194,557	2,132,954	△ 61,603	△ 2.8		そ の 他	845,287	850,959	5,672	0.7
		運 送 雑 収 益	26,863	24,695	△ 2,168	△ 8.1		計	1,606,500	1,498,276	△ 108,224	△ 6.7
		雑 収 益	367	387	20	5.4		経 費	246,171	243,559	△ 2,612	△ 1.1
						動 力・燃 料・油 脂	140,581	136,549	△ 4,032	△ 2.9		
	計	27,230	25,082	△ 2,148	△ 7.9	そ の 他	345,430	383,522	38,092	11.0		
	小 計	2,221,787	2,158,036	△ 63,751	△ 2.9	計	732,182	763,630	31,448	4.3		
	他 会 計 補 助 金	177,259	283,624	106,365	60.0	減 価 償 却 費	209,231	239,950	30,719	14.7		
	補 助 金	2,000	2,600	600	30.0	小 計	2,547,913	2,501,856	△ 46,057	△ 1.8		
	そ の 他	214,857	148,031	△ 66,826	△ 31.1	営業 外 費用	支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	4,437	3,212	△ 1,225	△ 27.6	
	小 計	394,116	434,255	40,139	10.2	線 延 勘 定 償 却	0	0	0	-		
	経 常 収 益 計	2,615,903	2,592,291	△ 23,612	△ 0.9	そ の 他	50,514	44,287	△ 6,227	△ 12.3		
	経 常 収 支	13,039	42,936	29,897	229.3	小 計	54,951	47,499	△ 7,452	△ 13.6		
	特 別 利 益	500	0	△ 500	皆減	経 常 費 用 計	2,602,864	2,549,355	△ 53,509	△ 2.1		
そ の 他	0	93,075	93,075	皆増	特別 損失	過 年 度 損 益 修 正 損	1,127,298	0	△ 1,127,298	皆減		
小 計	500	93,075	92,575	18,515.0	小 計	1,127,298	0	△ 1,127,298	皆減			
事 業 収 益 合 計	2,616,403	2,685,366	68,963	2.6	事 業 費 用 合 計	3,730,162	2,549,355	△ 1,180,807	△ 31.7			
純 損 益	△ 1,113,759	136,011	1,249,770	△ 112.2								
累 積 欠 損 金	2,743,349	2,607,413	△ 135,936	△ 5.0								
資 本 的 収 支	収 入	企 業 債	291,600	334,500	42,900	14.7	支 出	建 設 改 良 費	300,740	340,857	40,117	13.3
		国 (県) 補 助 金	951	0	△ 951	皆減		企 業 債 償 還 金	203,199	259,877	56,678	27.9
		他 会 計 補 助 金	203,199	259,877	56,678	27.9		投 資	611	611	0	0.0
		投 資	782	792	10	1.3		他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金	64,200	0	△ 64,200	皆減
		負 担 金	0	0	0	-		計	568,750	601,345	32,595	5.7
	計	496,532	595,169	98,637	19.9							
資 金 不 足 額	275,501	179,117	△ 96,384	△ 35.0								
資 金 不 足 比 率 (%)	12.3	8.2	-	-								

※千円未満四捨五入

※ 平成27年度当初予算額は、平成27年第1回青森市議会定例会において追加提案した平成27年度補正予算(第1号)後の額としている。

【資料2】

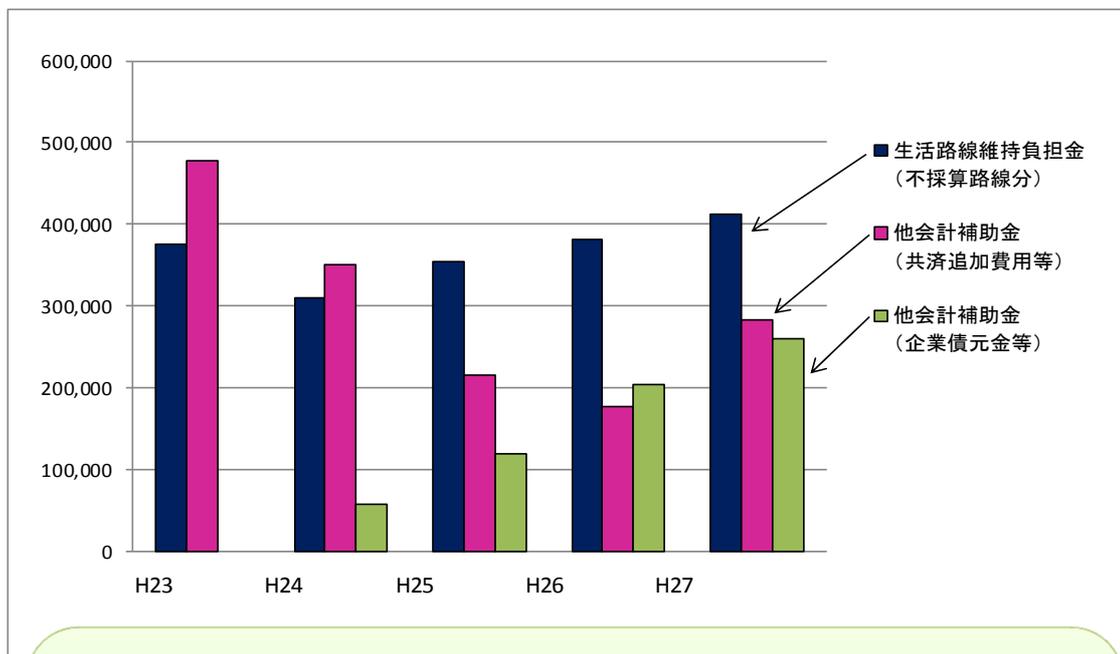
一般会計からの補助金等の推移（5年間）

事業収入をもって充てることが適当でない又は困難な経費については、地方公営企業法により、一般会計が負担することとしており、交通事業においては、不採算路線の維持に係る経費や企業債の償還分などを繰入れしています。

【一般会計繰入金の内訳】

（単位：千円）

繰入区分		平成23年度 (決算)	平成24年度 (決算)	平成25年度 (決算)	平成26年度 (当初予算)	平成27年度 (当初予算)
収 益 入 的	生活路線維持負担金 (不採算路線分)	375,186	310,047	354,428	380,385	412,106
	他会計補助金 (共済追加費用等)	478,493	350,034	215,619	177,259	283,624
収 資 本 入 的	他会計補助金 (企業債元金等)	0	56,872	119,588	203,199	259,877
合 計		853,679	716,953	689,635	760,843	955,607



他会計補助金(3条予算:共済追加費用等)は、退職手当に係る補助金が含まれており、H27年度は退職者が多い(前年度比:6名増)ことから、約1億円増加しています。
 生活路線維持負担金は、不採算路線の維持や経営の安定化などに対する市の補助金で、各年度の運行ダイヤや路線別の収支状況、物価変動などの影響を受けるものです。
 H27年度は、市の交通戦略の見直しに伴い、バス路線の再編を行わないことから、約3千万円増加しています。
 他会計補助金(4条予算:企業債元金等)は、H22年度から計画的に更新しているバス車両等の元金償還(5年償還)に対する補助金ですが、H27年度は、主に前年度に購入した中型バス15両分の償還が開始されるため、約8千万円増加しています。

【資料3】

営業成績の推移(5年間)

H23～H25は決算額(税抜)、H26～H27は予算額(税込)

区分		年度	H23	H24	H25	H26 (当初予算)	H27 (当初予算)	備考
営業キロ(km)			282.5	271.4	235.6	235.6	216.0	
運転車両数(両)			174	158	146	146	139	
運転走行キロ(km)			4,216,631	4,147,065	3,859,474	3,557,886	3,387,561	※実車 [※] 。
総運転走行キロ(km)			4,949,851	4,834,149	4,499,516	4,133,348	3,912,016	※実車 [※] +回送キロ
乗車人員(人)			8,491,110	8,448,859	8,184,444	7,876,308	7,528,655	
乗車料収入(千円)			1,813,542	1,788,577	1,751,109	1,814,172	1,720,848	
在籍職員数(人)			201	189	183	174	170	※職員数には管理者を含み、嘱託職員・臨時職員は含まない
一日平均	運転走行キロ(km)		11,521	11,362	10,574	9,748	9,256	
	総運転走行キロ(km)		13,524	13,244	12,327	11,324	10,689	
	乗車人員(人)		23,200	23,148	22,423	21,579	20,570	
	乗車料収入(千円)		4,955	4,900	4,798	4,970	4,702	
収益的収支	収入(千円)		2,709,447	2,491,480	2,384,079	2,616,403	2,685,366	
	支出(千円)		2,868,318	2,728,640	2,567,734	3,730,162	2,549,355	[H26年度収支について]
	損益(千円)		△158,871	△237,160	△183,655	△1,113,759	136,011	※会計基準改正の影響分 (収入) 206,563千円 (支出) 1,259,848千円 (差引) △1,053,285千円
	累積欠損金(千円)		1,194,443	1,431,603	1,615,257	2,743,349	2,607,413	
	資金不足比率(%)		16.0	15.9	13.0	12.3	8.2	